

【第 1 回】

文化遺産保護と 3D 考古学

日時：2025 年 10 月 4 日(土) 14:00-15:30

場所：公立小松大学中央キャンパス 305・306 号室

講演者：

・野口 淳（公立小松大学次世代考古学研究センター 特任准教授）

専門は 3D 計測、南アジア考古学、旧石器考古学。日本考古学協会 理事、国立研究開発法人産業技術総合研究所 外来研究員。日本列島の関東平野南部～中部高地の後期旧石器時代や、西アジア、アラビア半島、南アジアの旧石器時代遺跡の調査研究を進めてきたほか、考古学・文化遺産の 3D 計測、デジタルアーカイブ、考古学調査と博物館の DX 実践に係る講演やワークショップを日本全国、海外（東南アジア・南アジア・中南米など）で実施している。



講演要旨：

3D 計測技術の発展とともに文化遺産分野への応用も進んでいます。スマートフォンを利用した 3D スキャンから、大型のスキャナー、さらにドローンを利用した計測など、さまざまな機器・技術を利用した取り組みが、日本国内、海外で行われています。公立小松大学次世代考古学研究センターによる中米ホンジュラス、グアテマラでの技術講習や博物館での VR コンテンツ利用、日本国内での史跡の公開活用や能登半島地震で被災した文化財の応急記録などの取り組みの紹介を通じて、新しい技術が文化遺産の保護と活用にどのように利用されているのかを解説します。

【第2回】

「小松市文化財保存活用地域計画」と文化財を活かしたまちづくりの官民学協働への展望

日時：2025 年 10 月 11 日(土) 14:00-15:30

場所：公立小松大学中央キャンパス 305・306 号室

講演者：

・杓谷 茂樹（公立小松大学国際文化交流学部 国際文化交流学科 学科長/ 次世代考古学研究センター 教授）

専門は文化人類学、観光人類学。2010 年、中部大学国際関係学部国際学科 教授などを経て、2018 年より現職。メキシコのチチェン・イツァ遺跡などのマヤ文明遺跡公園を対象にした観光人類学研究を行っている。また、公立小松大学の教育活動では、学生と共に、小松市鶴遊立地域のまち歩きマップや紹介動画マップの作成も実施し、産官学での地域の活性化にも取り組む。本講演の関連として、小松市文化財保存活用地域計画策定協議会委員を務めたほか、小松市未来型図書館等複合施設づくりにアドバイザーリーボードメンバーとして参画している。



講演要旨：

「小松市文化財保存活用地域計画」が本年7月に文化庁より認可された。同計画実行の取り組みのひとつに文化財の保存・活用推進への大学の連携が掲げられており、本学の取り組みもここに含まれる。また、文化財を活かしたまちづくりには、市民が主体的に関わる形での官民学協働の体制づくりが求められている。本講演では、小松市が進めている未来型図書館等複合施設づくりでキーとなる共創に関する議論も交えて、同計画推進への取り組みについて展望していきたい。

【第3回】

小松を物語る石文化～未来への継承に向けて～

日時：2025 年 10 月 25 日(土) 14:00-15:30

場所：公立小松大学中央キャンパス 305・306 教室

講演者：

・朝倉 由希（公立小松大学国際文化交流学部 国際文化交流学科/ 次世代考古学研究センター 准教授）

専門は文化政策。2009 年、東京藝術大学アトリエゾンセンター学術研究員、2017 年、文化庁地域文化創生本部総括・政策研究グループ研究官などを経て、2021 年より現職。文化政策の予算や体制等についての諸外国の比較研究や自治体文化政策の研究に取り組み、文化と地域の持続的発展の仕組みを検討している。公立小松大学のゼミナール活動の中では、学生と共に、小松市滝ヶ原地区や尾小屋地区のサーチを行い、活性化にも取り組んでいる。



講演要旨：

小松の石文化は『珠玉と歩む物語』小松～時の流れの中で磨き上げた石の文化～というストーリーで日本遺産に認定されています。日本遺産とは、地域の文化財を歴史文化の物語でつなぎ、地域アイデンティティとして住民が誇りに思い継承することにつなげたり、外部に発信しやすくするための仕組みです。地域の個性を磨き発信していくことの今日的意義や重要性を確認したうえで、小松の石文化を地域振興に活かしていくためのポイントを考えます。

【第4回】

小松の石文化と九谷焼 ―石物語の原点「花坂陶石」とものづくりのDNA

日時：2025年11月1日(土) 14:00-15:30

場所：公立小松大学中央キャンパス 305・306 教室

講演内容（全体）

小松市は色鮮やかな「九谷焼」の産地として知られています。その背景には、周辺地域で産出される良質な陶石の存在があり、その九谷焼の原点ともいえる「花坂陶石」は、小松のものづくりの歴史を語るうえで欠かせない存在です。小松は石とともに歩んできた歴史と文化を軸に、2020年に日本遺産「珠玉と歩む物語―石の文化が息づくまち・小松―」として認定されました。石に関わる人々の営みと、そこから育まれた「ものづくりのDNA」は、小松の文化の核心といえます。

本講演では、九谷焼作家と考古学の立場から、「花坂陶石」を手がかりに、小松の石文化とものづくりの精神について語っていただきます。

講演者：

・ 檜田 誠（小松市埋蔵文化財センター 元所長）

小松市埋蔵文化財センターで所長や専門官として活躍してきました。埋蔵文化財の調査・研究を中心に、史跡や建造物等の文化財全般、芸術文化・伝統芸能など広く文化施策に携わる中で、小松に石の文化が培われていることを見出し、小松市の日本遺産認定に際し尽力した。石文化や地域文化の教育的発信、フォーラム・現地見学会の実施など、学術・教育・地域連携の橋渡し役も果たしている。



・吉田 幸央（錦山窯四代・九谷焼作家）

1906 年創業の「錦山窯」四代目当主。色絵や金彩などの従来の九谷焼の伝統技法を活かしながら、「彩色金襴手（さいしききんらんで）」の技法を用い、水彩画のような淡い色合いを表現した独自の作風が特徴的。その繊細で上品な表現が高く評価されている。創作活動が続ける一方で、地域文化との接点を大切にし、地元小松市の文化発信にも積極的に関与している。



司会：中子 富貴子（公立小松大学国際文化交流学部 国際文化交流学科/ 次世代考古学研究センター教授）

スケジュール

14:00-14:05 はじめに

14:05-14:25 講演①

榎田誠氏 「小松の石文化」のストーリーが出来上がるまで／その背景になる陶石の存在

日本遺産に認定された小松の石文化といえば、弥生時代の碧玉製首飾りや壮大な石切り場を連想すると思います。しかし実は、石物語を紡いだ発想の原点は「花坂陶石」にありました。キーワードは「時を超えてつながる」です。小松にしかない石物語がどのように生まれたのか、そして、その物語に込めた思いについてお話しします。

14:25-14:45 講演②

吉田幸央氏 現代九谷焼作家から見る小松の石の歴史

小松の石文化のストーリーが発表されてから、何度も足を運んだ小松市埋蔵文化センター展示室で私を待っているのは、いつも古の工人が作った美しい道具達でした。硝子越しに眺めていると、私の思いはいつしか 370 年の九谷焼の歴史を飛び越え、古九谷以前の見知

らぬ陶工達の思いと同期し始めるのです。近代の九谷焼に代表される色絵磁器は、石を材料にして火に通すことにより、さらに美しい石を創り出す行為とも言えます。小松というこの風土の中に、古代より延々と受け継がれてきた「何か」を、当時の工人の姿に思いをはせながら、現代の作り手の一人として感じるところをお話したいと思います。

14:45-15:30 講師 2 名による対談、質疑応答（司会：中子）